

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,7 AUTOPOLIS GT 300Km

60

OTGI
MOTOR SPORTS● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

96

ktunes
RACING● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

10月20日 | 天候:晴れ | 気温:16度 | コース:オートポリス | 路面温度:26度(ドライ)

60

OTGI
MOTOR SPORTS● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATAQualifying Day Summary

公式練習では路面コンディションとマッチングが悪く苦戦を強いられたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3だが予選Q1は宮田選手がトップで通過、吉本選手が担当した予選Q2ではアタックのタイミングが合わずに13番手となる。

Qualifying Day

今シーズンは唯一の海外ラウンドとなるタイ戦が6月末に開催されることになったため、SUPER GTの年間スケジュールが調整され、昨シーズンは5月に実施されたオートポリスラウンドが10月開催に移行された。

そして、年間8戦で競われているAUTOBACS SUPER GTシリーズは、前戦のスポーツランドSUGOラウンドで6戦が終了し、残すところ2戦となる。SUPER GTは入賞すると獲得ポイントによってウェイトを搭載するウェイトハン



ディ制を導入していて、第2戦から第6戦は獲得ポイント×2kgがハンディとなっていた。だが、開幕戦から全戦出場しているマシンの場合は、第7戦で搭載するウェイトが獲得ポイント×1kgとなり、最終戦はマシンの性能差がそのまま現われるノーウェイトで競われることになる。

第6戦までに21ポイントを獲得していたので42kgのウェイトを搭載していたが、第7戦では23kgへ軽減された。もちろん、ライバル勢もハンディウェイトが軽減されるため同一条件にはなるが、よりマシンの素性が顕著となるのだ。

そんなシーズン最終盤へと突入する「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 7 AUTOPOLIS GT 300km RACE」は、10月20日(土)、21日(日)の二日間に亘ってスケジュールが組まれていて、20日には公式練習と予選、21日には300kmの決勝レースが実施される。

Qualifying Day

阿蘇の外輪山の中腹に位置するオートポリスは、搬入日となった前日同様に強い冷え込みで朝方は10℃を下回る気温で、来場者には厳しい環境となった。20日は、9時から10時45分に掛けて公式練習が実施され、そのうち10時25分からの10分間はGT300クラスの専有走行となる。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には、まず吉本大樹選手が乗り込みマシンの状態をチェック。19周を走行する間に2回のピットインでマシンのセットアップを調整し、持ち込んだタ



イヤの確認も同時に行なった。公式練習の開始から約1時間が経過した10時過ぎになると、宮田莉朋選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握る。宮田選手は、10分間のGT300専有走行も担当し8周を走行。公式練習の結果は、吉本選手がマークした1分44秒947がベストタイムで14番手となった。

公式練習後に行なわれた20分間のサーキットサファリも宮田選手が走行を続け、9周を走行し予選前の最終確認を行なった。

<予選>

12時から1時間に亘って実施されたピットウォークとFIA-F4第11戦の決勝レースを挟んでGT300クラスの予選Q1が実施される。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだのは宮田選手で、コースオープンとともに走行を開始する。インラップと翌週の2周を使い入念にタイヤを温めると3周目にタイムアタックをスタート。セクター1、2ともに全体ベストをマークすると、セクター3もミスなく攻めきり1分43秒542をマークし、計時モニターのトップにSYNTIUM LMcorsa RC F GT3と宮田莉朋選手の名前が表示される。チームはこのタイムを確認すると宮田選手をピットに戻し、ライバル勢の動向を見届けることとなった。予選Q1開始から10分後に22号車AMG GT3のスピンのによって赤旗が提示されたため中断となる。再開後も宮田選手のタイムを上回るマシンは現われず、予選Q1をトップで通過した。

10分間で競われた予選Q2は吉本選手が担当する。コースオープンとともに走行を開始したLMcorsa RC F GT3は、ウォームアップを行なうとともにコースクリアな状況を求めてインラップから4周を走行し、5周目にアタックを実施。ウォームアップに時間を掛けてしまったため思うほどのタイムが刻めず、1分44秒701で13番手という結果となった。明日の300kmレースは13番手グリッドからのスタートとなるが、コンディション次第では上位に食い込める速さを持っているというので、より多くのポイント獲得を目指して戦うことになる。

Team Comment



Director : 飯田 章

公式練習は、想定以上に路面温度が低かったために持ち込んだタイヤが機能せず、苦しい展開でした。しかし、徐々に気温が上がっていくと本来のパフォーマンスが発揮できるようになりました。予選 Q1 は担当した宮田選手がトップタイムをマークしてくれて、素晴らしい結果だと思います。予選 Q2 は波に乗れなかったのか、アタックのタイミングが合わずに 13 番手という結果でした。明日の決勝レースは荒れることも予想されるので、着実なレースを行なってポイントを獲得したいです。



Driver : 吉本 大樹

公式練習ではタイヤと路面温度がマッチしていなかったための的確なセットアップが見つけれず苦しい展開となりました。それでも、路面温度が上昇した予選ではタイヤのパフォーマンスが発揮できる状態となったため、状況が好転しました。宮田選手は素晴らしいタイムで予選 Q1 を突破してくれたので、ポールポジションを目指して予選 Q2 に挑みました。しかし、コースのクリアな状況を探していたことや宮田選手よりも多くウォームアップを行なったために、結果として最適なタイミングでタイムアタックができませんでした。チームに申し訳なく思っています。明日の決勝レースは、状況次第になりますがペース良く走れるはずなので巻き返したいです。



Driver : 宮田 莉朋

公式練習は最初に中古タイヤで走ったのですが、状況が悪かったためにすぐにピットに戻りました。専有走行のときはニュータイヤで走行し、気温も上昇したため多少ペースも上げられました。しかし、事前のメーカーテストよりはタイヤのグリップ感が薄く、本来のパフォーマンスが発揮できていないようです。予選 Q1 は後半に赤旗が出たことで運にも恵まれましたが、トップで通過できて良かったです。また、決勝レースに向けてセットアップの課題も見えたので、明日までに対応できればと思います。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



Qualifying Day Summary

公式練習を2番手の結果で終えたK-tunes RC F GT3だったが
予選では路面温度やコンディションが変わり予選Q1を担当した
中山選手が8番手で突破するものの新田選手が走った予選Q2では10番手となる

Qualifying Day

今シーズンは唯一の海外ラウンドとなるタイ戦が6月末に開催されることになったため、SUPER GTの年間スケジュールが調整され、昨シーズンは5月に実施されたオートポリスラウンドが10月開催に移行された。

そして、年間8戦で競われているAUTOBACS SUPER GTシリーズは、前戦のスポーツランドSUGOラウンドで6戦が終了し、残すところ2戦となる。SUPER GTは入賞すると獲得ポイントによってウェイトを搭載するウェイトハンディ制を導入していて、第2戦から第6戦は獲得ポイント×2kgがハンディとなっていた。だが、開幕戦から全戦出場しているマシンの場合は、第7戦で搭載するウェイトが獲得ポイント×1kgとなり、最終戦はマシンの性能差がそのまま現われるノーウェイトで競われることになる。そのため、K-tunes RC F GT3は24kgのウェイトを搭載してオートポリスラウンドを戦う。

そんな終盤戦へと突入する「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 7 AUTOPOLIS GT 300km RACE」は、10月20日(土)、21日(日)の二日間に亘ってスケジュールが組まれていて、20日には公式練習と予選、21日には300kmの決勝レースが実施される。前戦のスポーツランドSUGOは、RC F GT3にとって相性の良いコースということでチームの士気も高く挑んだ。公式練習では3



番手のタイムをマークしたものの、予選と決勝レースでは不運もあり、4戦連続のポイント獲得とはならなかった。

雪辱の思いを込めて乗り込んだオートポリスラウンドの走り始めは、20日の9時から10時45分に掛けて実施された公式練習で、1時間45分のうち10時25分からの10分間はGT300クラスの専有走行となる。

Qualifying Day

K-tunes RC F GT3 には、まず中山雄一選手が持ち込みのセットアップを確認するとともに、使用するタイヤのチェックも実施。中山選手は公式練習のスタートから 22 周を走行し、その間にセットアップの調整も行なった。走行開始から 1 時間が経過すると、続いて新田守男選手が K-tunes RC F GT3 に乗り込む。新田選手もマシンのコンディションチェックを実施しつつ、GT300 クラスの専有走行も担当。二人のドライバーで合計 38 周を走行し、中山選手がマークした 1 分 43 秒 816 がベストタイムとなり、GT300 クラスの 29 台中 2 番手のリザルトを残した。

<予選>

12 時から 1 時間に亘って実施されたピットウォークと FIA-F4 第 11 戦の決勝レースを挟んで GT300 クラスの予選 Q1 が実施された。

中山選手が乗り込んだ K-tunes RC F GT3 は、コースオープンとともに走行をスタート。インラップから 4 周に亘ってマシンのコンディション確認とタイヤやブレーキに熱を入れて、5 周目にタイムアタックを実施すると 1 分 44 秒 136 をマーク。翌周もアタックを続けるが、22 号車の AMG GT3 が第 1 ヘアピン手前でスピンを喫したために赤旗が提示され、タイム更新のチャンスを失ってしまう。再開後もアタックを続けてベストタイムに並ぶ 1 分 44 秒 209 を記録。結果として 8 番手で予選 Q1 を突破した。

続く予選 Q2 は 10 分間で競われ、新田選手が K-tunes RC F GT3 のステアリングを握りコースイン。2 周に亘ってタイヤに熱を入れてウォームアップを行なうと 3 周目からタイムアタックを開始する。まずは 1 分 46 秒台のタイムをマークし、4 周目には 1 分 44 秒 229 までタイムアップ。翌周も 1 分 44 秒 994 を記録するが、さらなるタイム更新は難しく、ピットにマシンを戻した。結果は 4 周目に記録した 1 分 44 秒 229 がベストタイムで 10 番手を獲得。公式練習では、決勝レースを想定した走行でフィーリングの良さを確認している。そのため、10 番手のスタートとなるがトップ 5 以内を目指してチーム一丸で 300km の決勝レースに挑む。



Team Comment



Director : 影山 正彦

公式練習では持ち込んだタイヤの確認がメインで、セットアップにはそれほど手を付けませんでした。それだけ、持ち込みのセットアップとコンディションが合っていたということです。予選ではRC F GT3の走行経験を考慮して、予選Q1を中山選手に担当してもらいました。公式練習と状況が変化したため想定のタイムはマークできませんでしたが、予選Q1を突破して予選Q2では10番手を獲得できました。決勝レースについては、公式練習でペースなどを確認できているので、上位へ食い込めると思います。明日は表彰台を狙って挑んでいきます。



Driver : 新田 守男

公式練習では走り始めのタイヤが、想像以上にピックアップが酷かく心配しました。しかし、コンパウンド違いのモデルを履くと印象が変わりました。予選では気温が上昇したためか公式練習ほどのグリップ感がなく、タイムアップすることができませんでした。もう少し上位のグリッドを獲得したかったのが残念です。明日の決勝レースは、ピックアップの問題が発生しなければ上位陣とも戦えると思うので期待したいです。



Driver : 中山 雄一

公式練習の走り始めは、マシンバランスが良いとは思いませんでしたがタイムは良かったので、そのままのセットにしました。新田選手も感じていたようにピックアップによってバランスが悪く感じたのかもしれませんが、予選は、公式練習よりもタイムアップができておりましたが、グリップ感が薄く想定した展開となりませんでした。公式練習では中古タイヤで安定したラップタイムが記録できていたので、決勝レースは10番グリッドからのスタートですがポジションを上げて、多くのポイントを獲得したいです

96



ktunes
RACING

● **M.NITTA**

● **Y.NAKAYAMA**